テセントリク/アバスチン療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール　通常「**3 週間**」を一区切り（1 コース）として治療します。

1 コース			2 コース		
1 週	2 週	3 週	1 週	2 週	3 週

⇨ 繰り返します

点滴（1 コース 1 週）　点滴（2 コース 1 週）

副作用の程度や体調によって
治療計画を変更することがあります。

点滴スケジュール　点滴時間「**約 3～2 時間**」

点滴順序

	薬品名	点滴時間	薬効
	生食 ＋テセントリク	60 分	免疫細胞にブレーキがかからないように働き、免疫細胞が腫瘍細胞を攻撃します。
	生食 50ml	15 分	点滴ルートを洗い流します。
	生食 100ml ＋アバスチン	90 分～ 30 分	腫瘍細胞へ栄養や酸素を補給する血管が作られるのを抑え、腫瘍細胞の成長が妨げられます。 点滴時間は初回が 90 分、異常がなければ 60 分、30 分と短縮することができます。

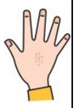
血液検査の結果や**問診による自覚症状の有無**を確認し､化学療法実施の決定を医師が行います。
この他にも輸液等を使用することがあります。

2. 予想される副作用

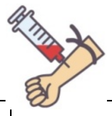
- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼「自分でわかる症状」

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
アレルギー反応 (インフュージョンリアクション) 	**薬剤投与中、投与後に起こることがあります。** **発疹、悪寒、発熱、呼吸苦、めまいなどの症状が出現することがあります。** 症状が出現時は、ステロイド剤と抗アレルギー剤で対応します。
吐き気・嘔吐・食欲不振	電解質のバランスが崩れた場合に出現することがあります。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。
下痢 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
そう痒症・発疹	体がかゆくなることや、発疹が出ることがあります。 症状に応じて塗り薬や飲み薬などを使用します。 
疲労感・倦怠感	無理をせず、十分な休息とるようにしてください。 肝機能が影響して症状が出現する事があります。
高血圧	我慢できないほどの頭痛や吐き気、意識がもうろうとする。 治療として一般的な降圧薬による治療が行われます。 急激に血圧が上昇して脳やその他の臓器に障害が生じることがあるため、治療期間中は定期的に血圧測定してください。 安静時に測定した血圧で最大血圧が 180mmhg もしくは最小血圧が 120mmhg を超える場合も連絡してください。
粘膜からの出血	主に鼻血、歯肉などから軽度の出血、血便がみられます。 これらの出血は通常軽く、たいていは、自然にとまります。 出血が止まらない時、血便だったときはお知らせください。
たん白尿	高血圧の方に出現しやすい傾向があります。 治療期間中は、定期的に尿タンパクを測定します。
血栓 （心筋梗塞、脳梗塞、狭心症など）	胸が痛む、胸がしめつけられる、意識を失いそうになる、ろれつがまわらなくなる、激しいめまいがする、突然息切れがするなど 症状がみられた時は、すぐに連絡してください。
間質性肺炎	空咳、息切れ、発熱など 症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
1 型糖尿病	血糖値が上昇します。 のどが乾く、水を多く飲むなどの症状を自覚することがあります。急速に進行する場合があり、吐き気や嘔吐が現れた後、1 週間前後で意識障害等が現れることもあります。
甲状腺機能障害	甲状腺中毒症、甲状腺機能低下症などに関連した検査値に異常をきたします。 症状として、疲れやすい、体重の変動、いらいらする、脱毛などが現れることがあります。
肝機能障害、肝炎	肝臓の機能が低下したり、肝臓に炎症が起こる病気です。 体がだるい、発熱、吐き気・嘔吐、食欲がない、白目や皮膚が黄色くなるなどの症状が見られる場合があります。 血液検査で AST、ALT、ビリルビンなどを確認します。
白血球　赤血球　血小板　腎機能　電解質　などの項目も問題ないか確認していきます	

ここに書いてあるもの以外の副作用が現れることもあります。
パンフレット「テセントリク アバスチン ハンドブック」もお読みください。
普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。

鹿児島市医師会病院　化学療法委員会
099-254-1125